

(旧) 県民交流広場 全県オフィシャルホームページ 掲載記事

掲載コンテンツ：リレーコラム

掲載時期	平成 26 年 3 月
テーマ	合言葉は「地域は家族」
寄稿者	丹波市中央地区自治振興会

◆繋がるきっかけづくり、ほっとする居場所づくりに

丹波市のほぼ中心に位置し商業のまちとして栄え、市の公共施設も集積している当地区は1600世帯20自治会からなります。300年以上の伝統を誇る「愛宕祭」は、毎年数万人の観客で賑わいます。しかし、近年少子高齢化、商店街の空洞化、核家族化が進みコミュニティも希薄化しつつあるのが現状です。

そのような中、平成19年度より丹波市全域で校区ごとに地域づくり事業が始まり当地域では、地域の課題や資源、めざす将来像等についてワークショップや全住民を対象にアンケートを実施しました。そこから寄せられた住民の思いを集約した結果、合言葉は「地域は家族」、「安心安全で笑顔があふれ将来も住み続けたいまち」をめざして地域づくり事業を進めようということになりました。そして、住民からの思いの中に、「住民が一同に会する場所がない。」「人・物・情報など交流する場がない。」「気軽に立ち寄れる場所がほしい。」との声を受け、平成21年度に県民交流広場事業に採択され、地域づくり事業の拠点施設として整備しました。

現在は、「ひかみ成松交流館」と名付け地域の情報も集約され「愛宕祭」の会議もスムーズに進み機能的になりました。交流館では、繋がるきっかけづくり、ほっとする居場所づくりに、コミュニティ cafe の計画を進めています。ふれあい、つながり、元気が生まれる。そんな家庭のリビングのような温かい cafe になればと考えています



今年度で県民交流広場事業も終了となります。「地域は家族」を合言葉に住民主役の地域づくりを継続していきたいと考えます。

◆個々の良さを生かして合同事業

「自信・誇り・賑わいの復活」を目標に地域づくり事業を考えていたところ、地元の商工会でも「衰退した商店街に人々が集うきっかけを作りたい。地域を活性化しよう」と「軽トラ市」の開催を検討されていました。それなら別々に事業をするのではなく壁を乗り越え個々の良さを発揮し自治振興会と商工会と合同で事業を進めようと繋がりました。出店者の募集や商店街へのお願い、当日のイベントや駐車場の手配や警備、広告等々、得意とするところを分担し計画を進めました。天候に悩まされることも多々ありながら10回の開催を重ね、会合士の繋がりが深まり、丹波市内外から出店者や来場者も増え、共に楽しめる参加型のまちづくりとして定着してきました。これからも地域の魅力を発信し見た目だけの賑わいではなく「心の賑わい」「人との繋がりを大切に継続していきたいと思っています。

<中央地区自治振興会の主な取り組み>



【丹波甲賀の里 軽トラ市】



【ふれあい田ねん】



【こうが山ゴスペルコンサート】



【ウォーキング大会】



【昔あそび大会】



【ラジオ体操会】